

E 21 直系家族における職業と財産の継承——愛知県安城市高棚地区の場合——

戸板女子短大 ○久保桂子
お茶の水女大家政 湯沢産彦

目的 現代農村における直系家族の職業と財産の継承の実態とその方向性を、農地を保有する家族を対象に検討する。現在、職業の移動は家族の世代間ばかりでなく個人のライフ・コース上でも生じており、結局、世帯主がいつの時代に何歳であつたかが、その家族の生計費取得活動や農地への対応を規定する。そこで本研究は課題の解明のため、10歳区別の年齢コーホートを分析の縦軸に、ライフ・コースを横軸とする分析枠組を用いた。

方法 愛知県安城市高棚地区在住の40代から70代の世帯主192名に訪問面接聴取調査を実施。調査時期は1981年7月12日～14日。補足調査は11月27日～29日。

結果 ①世帯主のコーホートいかんによつて、その家族の農業への関わり方が大きく相違する。②世帯主自身の就労働向を大きく特長つけると、70代＝農業継続が支配的（3分の2）、60代＝農業継続が4割を占めるが、農業→雇用、雇用継続も少なくない。50代＝農業→雇用が最多だが、雇用→農業→雇用、雇用継続、農業継続も多く、最も多様。40代＝農業→雇用と雇用継続が多く、現在雇用者であるものが9割以上である。③現在農地は先祖から受け継いだ生産手段であるばかりでなく不動産としての性格も強まっている。しかし退職後や非常時にはまた重要な生産手段となり、ライフ・ステージ、経済活動状況によつて家族の農地への対応が異なっている。④子の1人が既婚後も家に残り、親と同居するという「直系家族」は対象家族の97%で維持またはその予定であり、約9割の家族の農地は住宅、宅地とともに継承される見通しである。そして農業はすでに家の主たる職業ではないとしても、今後も約8割の家族によつて続けられていくもようである。